

【常設展示室 ①】 イメージ 境界をこえる写真

写真は1830年代末に発明されて以来、視覚情報を伝える重要な役割を担ってきました。芸術の世界では、単なる技法にとどまらず、それ自体が作品として成り立つ存在とみなされています。この認識は、写真が特に20世紀以降に新たな表現方法として取り入れられ、さまざまな美術動向と相互に影響を与え合うなかで、次第に深まっていったものです。現実を忠実に再現する描写性や、複製が容易で広く流通する特性など、写真の独自性は芸術そのものの捉え方を変える役割も果たしてきたのです。

今回の展示では、15作家17作品を通じて、写真が記録手段の枠を超え、芸術表現として発展してきた歴史を振り返ります。写真と芸術の境界を押し広げたマン・レイの作品をはじめ、アンディ・ウォーホルや森村泰昌らによるポートレート、大辻清司や山中信夫たちのコンセプチュアルな作品、やなぎみわや蜷川実花など女性作家ならではの視点で表現した作品、潘逸舟がイサム・ノグチの野外彫刻を元にした作品など、多彩な写真表現をお楽しみください。

作品リスト

No. / 作家 / 作品名 / 制作年(表記のないものは不詳) / 技法・材質 / 寸法(縦×横×高または奥行、直径×高)cm

- | | | | |
|----|---------------|----------------------------------|---|
| 1 | マン・レイ | 埃の培養 | 1920 / 写真 / 24.0×30.5 |
| 2 | リチャード・ハミルトン | 一体何が昨日の家庭をこれほどに変え、魅力的あるものにしたのか | 1991 / カラーレーザープリント・紙 / 26.2×25.0 |
| 3 | ロバート・ラウシェンバーク | 兆候 | 1970 / シルクスクリーン・紙 / 109.0×86.0 |
| 4 | アンディ・ウォーホル | マリリン・モンロー | 1967 / シルクスクリーン・紙 / 91.5×91.5 |
| 5 | 郭 徳俊 | フォードと郭 | 1974 / 写真・パネル / 150.0×105.0 |
| 6 | 郭 徳俊 | クリントンIIと郭 | 1997 / 写真・パネル / 150.0×105.0 |
| 7 | 郭 徳俊 | オバマと郭 | 2009 / 写真・パネル / 150.0×105.0 |
| 8 | 森村泰昌 | 肖像(ヴァン・ゴッホ) | 1985 / カラー写真プリント / 120.0×100.0 |
| 9 | 大辻清司 | eyewitness | 1955-70 / モノクロプリント / 20.3×24.4 (57点のうち5点) |
| 10 | 河口龍夫 | 陸と海 | 1970/1983 / ゼラチンシルバープリント / 35.5×60.0 (26点のうち3点) |
| 11 | 山中信夫 | パリのカメラ・オブスクラ | 1982 / モノクロ写真・スチロールボード / 240.0×240.0×50.0 |
| 12 | 春木麻衣子 | clear sky | 2006 / タイプCプリント / 124.0×158.0 (2点) |
| 13 | 蜷川実花 | Acid Bloom | 2003 / Cプリント・プレキシガラス / 97.0×145.6 |
| 14 | やなぎみわ | Series of Fairy Tale Untitled IV | 2005 / ゼラチンシルバープリント / 140.0×100.0 |
| 15 | 野口里佳 | 鳥を見る | 1997 / カラープリント / 15.0×15.0 |
| 16 | 西野 達 | Life's Little Worries in Berlin | 2007 / Cプリント / 155.0×113.0 |
| 17 | 潘 逸舟 | タイム・アンド・スペース/イサム・ノグチ、1989年作 | 2022 / インクジェットプリント / 7.5×10.0 (35点のうち8点) |

2025年 1月7日 火 - 3月30日 日

※3/6(木)、3/7(金)は展示替えのため休室

開館時間：9:30～17:00(ただし、特別展開催期間2/1～3/16の金・土は19:00まで。
展示室入室は閉館30分前まで)

休館日：月曜日(ただし、1/13[月・祝]、2/24[月・振休]は開館、1/14[火]、2/25[火]は休館)

2025年1月21日(火)～3月16日(日)の期間、1階図書コーナーにて特別企画「藤安淳展 かさなるひかり」を開催します。
期間中はぜひ併せてお楽しみください。

学芸員によるギャラリートーク

※要観覧券

2025年 3月1日(土) 14:00～

【常設展示室 ②】 香川の人間国宝 一技の伝承

人間国宝（重要無形文化財保持者）とは、文化財保護法に定められているもので、芸能や工芸技術など特に重要なわざを体得している人を「保持者」として認定しています。1955（昭和30）年に重要無形文化財保持者の第一次認定が発表されて以来70年が経過し、これまでに、工芸技術・芸能両分野で計395名が認定されています。

香川県ではこれまでに、代表的な技法である彫漆と蒔醤の技法で6名の漆芸家が指定されています。彫漆の音丸耕堂は、豊富な色漆を駆使して大胆な意匠により独自の境地を切り拓き、1955（昭和30）年に彫漆保持者に認定されました。蒔醤では、5人が認定されていますが、なかでも磯井如真は、凸版写真印刷からヒントを得た点彫り蒔醤を創案、色の濃淡や奥行表現に成功し、1956（昭和31）年

に蒔醤保持者に認定されました。また、如真の三男である磯井正美は、均一の平面に斑文を生じさせる独自の技法により、1985（昭和60）年蒔醤保持者に、さらに太田儔は、藍胎を素地とした布目彫り蒔醤により、蒔醤の絵画的表現領域を深め、1994（平成6）年に蒔醤保持者に認定されました。近年では、磯井正美に師事した山下義人が幅広い彫りと色埋めを丹念に繰り返す技法により2013（平成25）年に、太田儔に師事した大谷早人は、藍胎と蒔醤を調和させた、繊細な色彩による品格のある作品を発表し2020年に蒔醤保持者に認定されています。

本展では、香川県が輩出した6人の人間国宝の名品31点を通じて、讃岐漆芸の魅力を探ります。

作品リスト

No. / 作家 / 作品名 / 制作年（表記のないものは不詳） / 寸法（縦×横×高または奥行、直径×高）cm ※技法・材質は全て漆

1	音丸耕堂	堆朱板文庫 昆蟲之圖	1928 / 33.3×24.2×4.5	17	磯井正美	蒔醤 むらさき 箱	1990 / 19.7×30.4×11.7
2	音丸耕堂	彫漆七面鳥香盆	1928 / 47.0×5.0	18	磯井正美	蒔醤 橘花創成盛器	2006 / 57.0×40.5×6.5
3	音丸耕堂	彫漆食籠	1932 / 19.9×9.8	19	太田 儔	木地蒔醤 食籠	1970 / 24.0×24×17
4	音丸耕堂	彫漆菓子盆	1932 / 26.5×3.3	20	太田 儔	藍胎蒔醤 食籠 朱と白	1990 / 22.0×22.0×14.5
5	音丸耕堂	彫漆椿文手箱	1943 / 33.6×28.3×18.1	21	太田 儔	藍胎箱 波文	1990 / 38.5×10.0×12.5
6	音丸耕堂	彫漆草花文様八段食籠	1957 / 28.0×11.0	22	太田 儔	藍胎蒔醤 盛器 チェリーボート	1998 / 17.3×60.6×9.1
7	音丸耕堂	彫漆水仙手箱	1975 / 23.8×17.8×13.5	23	太田 儔	藍胎蒔醤 茶箱 春風	1998 / 22.0×15.0×14.0
8	磯井如真	乾漆 花瓶	1937 / 15.9×39.6	24	山下義人	蒔醤箱 水烟る	1987 / 24.0×12.0×11.0
9	磯井如真	堆黒 香盆 麒麟之図	1946 / 33.2×33.5×3.5	25	山下義人	蒔醤色紙箱 波がさね	1988 / 30.1×37.2×5.3
10	磯井如真	蒔醤 香盆 蜜竹之図	c.1955 / 30.7×2.7	26	山下義人	くれない 蒔醤箱	2005 / 13.5×26.5×13.5
11	磯井如真	彫漆 合唱之図 硯筥	1954 / 28.0×23.0×5.0	27	山下義人	蒔醤箱 山笑う	2011 / 13.5×26.5×13.5
12	磯井如真	蒔醤 筆筥 銀葉アカシヤ之図	1957 / 36.5×12.5×4.5	28	山下義人	「山滴る」蒔醤箱	2014 / 13.0×26.0×13.5
13	磯井如真	蒔醤 干菓子盆 亀鶴松竹梅之図	1963 / 27.2×23.6×2.5	29	大谷早人	藍胎蒔醤 文箱	1989 / 24.4×30.6×5.6
14	磯井正美	蒔醤 陽炎 丸盆	1972 / 40.3×4.7	30	大谷早人	藍胎蒔醤箱 網代文	1997 / 22.0×15.8×18.2
15	磯井正美	蒔醤 石畳 箱	1987 / 27.2×19.2×10.7	31	大谷早人	藍胎蒔醤 十二角食籠 蝶蜻蛉	2013 / 22.7×22.7×8.3
16	磯井正美	蒔醤 清明 盛器	1988 / 45.6×45.6×5.5				

2025年 1月7日 火 — 3月30日 日

※3/6(木)、3/7(金)は展示替えのため休室

開館時間：9:30～17:00（ただし、特別展開催期間2/1～3/16の金・土は19:00まで。
展示室入室は閉館30分前まで）

休館日：月曜日（ただし、1/13[月・祝]、2/24[月・振休]は開館、1/14[火]、2/25[火]は休館）

〒760-0027 香川県高松市紺屋町10-4 TEL:087-823-1711



学芸員によるギャラリートーク

※要観覧券

2025年 3月1日(土) 14:00～